

令和6年度 看護師等養成所の教育活動等に関する自己評価

1 教育理念・教育目的

評価項目	3 よく当てはまる 2 大体当てはまる 1 当てはまらない 数字を記入 () 内数字は昨年度の平均	総括
教育理念・教育目的は、自養成所の教育上の特徴を示している。	3.0 (2.8)	<p>「人間愛」「独立自尊」「学如不及」の精神で人を見る看護師になるために主体的に学習に取り組む姿勢や人間の尊厳を守り常に自己研鑽できるよう教育目的・教育目標にも明示している。教育理念・教育目的・教育目標は整合性のある内容となっている。</p> <p>教育理念・教育目的・教育目標は学生便覧に示されているが、学生の学習の指針となるように学生便覧での確認は常態化していない。</p> <p>教育活動の指針としているかは、個人人により差があり、個人毎に意識に差があると思われるが、客観的なデータはないため、明らかになっていない。教育方法をどのようにとるのかは明示しており、教育環境についての理解はばらつきがある。</p> <p>教育理念・教育目的・教育目標に沿って卒業時点においてもつべき資質は、学生便覧の期待される看護師像に明示されており、教育目標と照らし合わせて表現している。</p> <p>ほとんどの項目で、昨年度の平均と比較して微増している。教員の定着率は比較的高く、本校に入職して最も短い教員で4年目であり、教員全体が教育理念・教育目的・教育目標について周知しており、理解が深まっているものと考えられる。</p> <p>*評価平均は2.8であり、前年度より0.1ポイント上昇している。</p>
教育理念・教育目的は、法との整合性がある。	3.0 (3.0)	
教育理念・教育目的は、学生にとって学習の指針になるように具体的に示している。	2.8 (2.5)	
教育理念・教育目的は、実際に学生の学習の指針になっている。	2.3 (2.3)	
教育理念・教育目的は、養成する看護師等の質を保障するために、どのような教育内容を設定しているかを述べている。	3.0 (2.8)	
教育理念・教育目的は、養成する看護師等の質を保障するために、どのような教育方法をとるのかを述べている。	3.0 (2.6)	
教育理念・教育目的は、養成する看護師等の質を保障するために、どのような教育環境をとるのかを述べている。	2.5 (2.6)	
教育理念・教育目的は、看護、看護学教育、学生観について明示している。	2.6 (2.8)	
看護、看護学教育、学生観は、実際に教師の教育活動の指針となっている。	2.2 (2.5)	
教育理念・教育目的は、養成する看護師等が卒業時点においてもつべき資質を明示している。	3.3 (3.0)	
卒業時点にもつべき資質は、社会に対する看護の質を保障するのに妥当なものとなっている。	2.8 (2.8)	

2 教育目標

評価項目	3 よく当てはまる 2 大体当てはまる 1 当てはまらない 数字を記入 () 内数字は昨年度の平均	総括
教育目標は、教育理念・教育目的と一貫性がある。	3.0 (2.7)	<p>教育目標は、教育理念・教育目的と一貫性があり、成文化されている。また、学年別到達目標に沿って、学年目標により教育計画を立案している。学年末の教育計画の到達度も評価できている。</p> <p>教育目標は具体的で実現可能な者になっており、卒業後の自己研鑽や継続教育の必要性を示している。しかし、継続教育に関して学生に意識づけられるものになっているかは分からない。</p> <p>*評価平均は2.9であり、昨年度と比較すると0.2ポイント上昇している。</p>
教育目標は、設定した教育内容を網羅している。	2.8 (2.8)	
教育目標は、最上位の目標として、教育活動のゴールが読みとれるものとなっている。	3.0 (2.8)	
教育の目標は、目標内容と到達レベルが対応している。	2.8 (2.8)	
教育目標は、具体的で実現可能なものとなっている。	2.7 (2.7)	
看護実践者としての能力を育成する側面と、学習者としての成長を促すための側面から教育目標を設定している。	2.8 (2.7)	
卒業後の継続教育の考え方を示した上で、教育目標を設定している。	2.5 (2.4)	

3 教育課程経営

(1) 教育課程経営者の活動

評価項目	3 よく当てはまる 2 大体当てはまる 1 当てはまらない 数字を記入 () 内数字は昨年度の平均	総括
教育課程編成者と教職員全体は、教育課程と授業実践、教育評価との関連性を明確に理解している。	2.2 (1.8)	教育課程編成者はカリキュラム改正の際に委員会を立ち上げ、編成していったが、一部の教員で勤めていった。教育課程の編成後全教員に周知したが、その後の教育活動の中で同じ理解で関連した授業を行っているかは評価していないため、明確になっていない部分がある。 *評価平均は2.3であり、昨年度より0.4ポイント上昇している。
教育課程編成者と教職員全体は、教育理念・教育目的の達成に向けて一貫した活動を行っている。	2.3 (2.0)	

(2) 教育課程編成の考え方とその具体的な構成

評価項目	3 よく当てはまる 2 大体当てはまる 1 当てはまらない 数字を記入 () 内数字は昨年度の平均	総括
看護学の内容について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している。	2.7 (2.4)	各看護学の考え方をもとに教育課程を編成しており、シラバスに明示している。学生の成長に合わせてt学修の到達度を考え、教育課程は編成されている。 *評価平均は2.7であり、前年度より0.4ポイント上昇している。
学修の到達について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している。	2.7 (2.3)	
学生の成長について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している。	2.7 (2.6)	

(3) 科目、単位構成

評価項目	3 よく当てはまる 2 大体当てはまる 1 当てはまらない 数字を記入 () 内数字は昨年度の平均	総括
明確な考え方と根拠をもって科目を構成している。	2.8 (2.5)	それぞれの科目について設定理由・科目目標はシラバスに明示しており単元の構成と教育理念・教育目的・教育目標と整合性があるが一部そうでない科目があるという意見がある。関連性のある科目や単元についてはマトリクスに明示しているが、確認しないまま単元の構成を考えている教員が存在する可能性がある。 *評価平均は2.6であり、昨年度と同じである。
明確な考え方と根拠をもって単元を構成している。	2.5 (2.4)	
科目と単元の構成の考え方は、教育理念・目的、教育目標と整合性がある。	2.3 (2.3)	
構成した科目は、看護師等を養成するのに妥当である。	3.0 (2.8)	
構成した科目は、養成所の特徴をあらわしている。	2.3 (2.7)	

(4) 教育計画

評価項目	3 よく当てはまる 2 大体当てはまる 1 当てはまらない 数字を記入 () 内数字は昨年度の平均	総括
単位履修の方法とその制約について、教師・学生の双方がわかるように明示している。	2.8 (2.5)	単位の履修方法とその制約については、学生便覧・学習評価規定に明示している。学習評価委規程を用いて年度初めに毎年説明を行い、単位修得方法について指導を行っている。 また、単位修得に関しては教務会議を経て教員の話合いの元柔軟に対応している。 科目の履修の順序性は外部講師の科目は制約があるができるだけ、順序性を考慮して配置している。 *評価平均は2.6であり、昨年度と比較し0.1ポイント上昇している。
単位履修の方法は、学生の単位履修を支援するものとなっている。	2.5 (2.7)	
単位履修制の考え方を踏まえつつ、看護師等になるための学修の質を維持できるように、科目の配列をしている。	2.5 (2.2)	

(5) 教育課程評価の体系

評価項目	3 よく当てはまる 2 大体当てはまる 1 当てはまらない 数字を記入 () 内数字は昨年度の平均	総括
単位認定の基準は、看護師等に必要学修を認めるものとして妥当である。	2.8 (3.0)	<p>単位認定の基準は、指導ガイドラインを遵守し、学則・施行細則・学習評価規定に沿って認定している。</p> <p>単位認定の方法は、単位認定試験・レポート提出・演習課題・授業態度等総合的に評価している。各科目の評価方法についてはシラバスに詳細を明記しており、開講時に講師より説明をしている。</p> <p>単位互換については入学時に申請する決まりになっているが、実際は他校とのカリキュラム進捗や学習内容に違いがあり、専門基礎分野・専門分野に関しては互換が難しい現状がある。また、倫理規定の整備は取り組めていない。 *評価平均は2.3であり、昨年度と比較して0.1ポイント低下している。</p>
単位認定の方法は、看護師等に必要学修を認めるものとして妥当である。	2.8 (2.7)	
他の高等教育機関と単位互換が可能な体制を整えている。	2.5 (2.5)	
教育課程を評価する体系を整えている。	1.7 (1.8)	
評価結果の活用における倫理規定を明確にしている。	1.5 (1.7)	

(6) 教員の教育・研究活動の充実

評価項目	3 よく当てはまる 2 大体当てはまる 1 当てはまらない 数字を記入 () 内数字は昨年度の平均	総括
教員が専門性を発揮できるように、教員の担当科目と時間数を配分している。	2.2 (2.3)	<p>専任教員の減少に伴い、教員の専門性を考えた授業の体制が難しくなっている。実習指導に追われ、ほぼ全員の教員で指導する期間もあり授業準備のための時間が取れる教員にばらつきがある。</p> <p>閉校の発表後、人員削減が大きな障壁となり研究授業や研修への参加も計画できなくなった。自己研鑽のシステムそのものが無くなったため、教員自身の自己研鑽に任せる部分が殆どになった。 *評価平均は1.5であり、昨年度と比較して0.1ポイント上昇している。</p>
教員が授業準備のための時間をとれる体制を整えている。	1.7 (1.2)	
教育課程の実践者である教員が自ら成長できるよう、自己研鑽のシステムを整えている。	1.2 (1.4)	
教員が相互に成長できるよう、相互研鑽のシステムを整えている。	1.2 (1.4)	

(7) 学生の看護実践体験の保障

評価項目	3 よく当てはまる 2 大体当てはまる 1 当てはまらない 数字を記入 () 内数字は昨年度の平均	総括
臨地実習施設は、養成所の個別の教育理念・教育目的・教育目標を理解している。	2.2 (2.2)	<p>実習打合せを各施設で行い、教育理念・教育目的・教育目標や実習科目のデザインについて説明し、学生にその実習科目で何を学ばせるのかを明確にするための説明を行っている。各実習施設において実習指導者からの理解は得られるが、実習指導者以外のスタッフへの周知については施設によりばらつきがある。</p> <p>臨地実習指導者と教員の役割について明文化したものはなく、検討に至っていない。また、教員の能力にも差があり、学生の力を引き出すコーチング力が不足する場合もある。また、学生の学ぶ権利と受け持ち対象を守る権利のバランスが取れなくなる事象には教務会議の際に情報共有や対応策を話し合う場を設けている。</p> <p>臨地実習でのアクシデント・インシデントの発生時にはレポートを用いて振り返りに対応策を考えているが、分析するまでには至っていない。 *評価平均は2.4であり、昨年度と比較すると0.1ポイント上昇している。</p>
臨地実習施設は、学生の看護実践の学習を支援する体制を整えている。	2.2 (2.1)	
臨地実習指導における学生の学びを保障するために、臨地実習指導者の役割を明確にしている。	2.2 (2.2)	
臨地実習指導における学生の学びを保障するために、教員の役割を明確にしている。	2.3 (2.3)	
臨地実習指導者と教員の協働体制を整えている。	2.5 (2.2)	
学生からケアを受ける対象者の権利を尊重するための考え方を明示している。	3.0(2.5)	
対象者の権利を尊重する考え方に基づいて、学生への指導を計画的に行っている。	2.3 (2.3)	
臨地実習において学生が関係する事故を把握、分析している。	2.6 (2.4)	
学生に対する安全教育、安全対策を計画的に行っている。	2.3 (2.5)	

4 教授・学習・評価過程

(1) 教授内容と教育過程との一貫性、看護学としての妥当性、授業内容間の関連と発展

評価項目	3 よく当てはまる 2 大体当てはまる 1 当てはまらない 数字を記入 () 内数字は昨年度の平均	総括
授業の内容は、教育課程との関係において、当該学生のための授業内容として設定されている。	3.0 (2.8)	<p>授業の内容は当該学生の為の授業内容として設定されており、シラバスに明示されている。</p> <p>授業内容のまとまりと科目目標との整合性を考えてシラバスを作成している。</p> <p>授業内容の重複は一部重複箇所があるが、1年次履修科目であり入学生がいなかったことから見直しはできないままだった。</p> <p>*評価平均は2.6であり、昨年度と比較すると0.1ポイント上昇している。</p>
授業内容のまとまりの考え方を明確に述べている。	2.5 (2.5)	
授業内容のまとまりの考え方は、科目目標との整合性をもっている。	2.7 (2.6)	
授業内容のまとまりは、看護学の教育内容として妥当性がある。	2.5 (2.5)	
授業内容間の重複や整合性、発展性等が明確になっている。	2.3 (2.1)	

(2) 授業の展開過程

評価項目	3 よく当てはまる 2 大体当てはまる 1 当てはまらない 数字を記入 () 内数字は昨年度の平均	総括
授業形態（講義、演習、実験、実習）は、授業内容に応じて選択している。	3.0 (2.7)	<p>授業計画は立案されており、授業形態についても学生参加型を取り入れ、工夫している教員が多い。</p> <p>授業展開方法についても授業計画を用いて開講時に説明しているが、学生が理解して学習が深化するための支援については教員により差が生じている。</p> <p>教員間での協力体制はあるが、体制として整えられてはいない。</p> <p>*評価平均2.4であり、昨年度と比較し0.3ポイント上昇している。</p>
授業展開に用いる指導技術についての考え方を授業計画等に明示し、実践している。	2.3 (2.2)	
授業の展開過程の他に、学生の学習が深化、発展するための方法を意図的に選択し、学習を支援している。	2.2 (1.8)	
学生に対し効果的な教育・指導を行うために、教員間の協力体制を明確にしている。	2.0 (1.8)	

(3) 目標達成の評価とフィードバック

評価項目	3 よく当てはまる 2 大体当てはまる 1 当てはまらない 数字を記入 () 内数字は昨年度の平均	総括
評価計画を立案し、実施している。	2.3 (2.3)	<p>ほとんどの科目で評価計画を明示しており、評価方法は試験・ルーブリック評価・レポート課題・ワーク課題等多岐に渡り、いずれも事前に学生に提示している。また評価規準についてはシラバスに明示しており、学生は評価方法や基準を把握できている。</p> <p>実習評価においては、すべての実習科目がルーブリック評価表を用いて評価し、教員の主観で評価が終わらないようにしているがルーブリック評価の活用方法に差が生じていることも事実として懸念され、客観的評価が難しい。そのため、評価表返却の際学生自己評価と教員評価のすり合わせを面接方式で行い、一方的な教員評価にならないよう評価の根拠を学生に伝えながら最終評価をしている。</p> <p>*評価平均は2.3であり、昨年度と比較し0.2ポイント上昇している。</p>
評価結果に基づいて、実際に授業を改善している。	1.8 (1.8)	
学生および教育活動を多面的に評価するために、多様な評価の方法を取り入れている。	2.2 (1.8)	
教育目標の達成状況を多面的に把握している。	1.8 (1.7)	
学生に単位認定のための評価基準と方法を公表している。	2.8 (2.6)	
単位認定の評価には公平性が保たれている。	2.8 (2.3)	

(4) 学習への動機づけと支援

評価項目	3 よく当てはまる 2 大体当てはまる 1 当てはまらない 数字を記入 () 内数字は昨年度の平均	総括
シラバスの提示や学習への指導は、養成所全体としての一貫性がある。	2.8 (2.4)	一貫した学習への指導は行っているが、学生の学習への動機づけの支援となっているかは、分析をしておらず不確かである。 *評価平均は2.5であり、昨年度と比較し0.5ポイント上昇している。
シラバスの提示や学習への指導は、学生の学習への動機づけと支援になっている。	2.2 (1.6)	

5 経営・管理過程

(1) 設置者の意志・指針

評価項目	3 よく当てはまる 2 大体当てはまる 1 当てはまらない 数字を記入 () 内数字は昨年度の平均	総括
養成所の管理者は、教育理念・教育目的についての考え方を明示している。	3.0 (2.7)	教育理念・教育目的についての考え方、設置者の意思を示す文書は、学生便覧に明示している。教育評価の考え方は学生便覧・学習評価規定に明示されており、会議等でも説明がなされている。 管理運営については、運営会議で検討され、検討内容については職員会議等で報告し線職員に周知している。しかし、管理者の考え方にすべてにおいて理解しているかは不明である。 *評価平均は2.3であり、昨年度と比較し同等である。
養成所の管理者は、教育課程経営についての考え方を明示している。	2.3 (2.6)	
養成所の管理者は、教育評価についての考え方を明示している。	2.7 (2.5)	
養成所の管理者は、養成所の管理運営等についての考え方を明示している。	2.0 (2.1)	
明示した管理者の考えと、設置者の意志とは一貫性がある。	2.2 (2.2)	
教職員は養成所の設置者と管理者の考え方を理解している。	1.8 (1.8)	

(2) 組織体制

評価項目	3 よく当てはまる 2 大体当てはまる 1 当てはまらない 数字を記入 () 内数字は昨年度の平均	総括
養成所の組織体制は、教育理念・目的を達成するための権限や役割機能が明確になっている。	2.5 (2.1)	業務分掌に基づいて教育理念・教育目標を達成するための権限や役割機能は明示している。また、最終決定権は学校長にあり、意思決定システムは明確になっている。 意思決定システムは運営会議・職員会議・教務会議を経て決定されるが、組織構成員の意思がすべて反映されているとは言えない。 組織の構成と教職員の任用の考え方については現在適性人数の確保ができておらず、閉校決定後在校生の学習への影響を最小限にするために学校運営に取り組むことが優先となり、教職員の資質の向上に取り組む余裕はないことが現状である。 *評価平均は2.1であり、昨年度と比較すると0.3ポイント上昇しているが、一昨年度（閉校決定前年度）は平均2.1ポイントだったことを考えると組織体制に対する取り組みの不十分さがみえる。
意志決定システムが明確になっている。	2.2 (1.8)	
意志決定システムは、組織構成員の意志を反映できるように整えられている。	1.8 (1.8)	
意志決定システムは、決定事項が周知できるように整えられている。	2.2 (1.7)	
組織の構成と教職員の任用の考え方と、教育理念・教育目的達成との整合性がある。	2.0 (1.8)	
教職員の資質の向上についての考え方と対策には、教育理念・教育目的達成との整合性がある。	1.8 (1.7)	

(3) 財政基盤

評価項目	3 よく当てはまる 2 大体当てはまる 1 当てはまらない 数字を記入 () 内数字は昨年度の平均	総括
財政基盤を確保することについての考え方が明確である。	1.0 (1.1)	例年評価平均は低い項目である。今年度も財政基盤について明確になった文書はなく、養成所がどのようにして財政基盤を確保しているか知る手段はない。運営会議で検討した項目については、職員会議で報告がなされているが、財政基盤についての検討は運営会議では行われることは少ない。財政基盤の確保についての考え方は、閉校に向けて学習・教育の質の維持が主になっており、向上するには至らない。 *評価平均1.2であり、昨年度と比較すると0.1ポイント上昇している。
財政基盤を確保することについての考え方は、学習・教育の質の維持・向上につながっている。	1.3 (1.3)	
教職員は、養成所がどのような財政基盤によって成り立っているかを理解している。	1.3 (1.0)	
教職員のそれぞれの観点からの財政についての意見は、経営・管理過程に反映できるようになっている。	1.2 (1.1)	

(4) 施設設備の整備

評価項目	3 よく当てはまる 2 大体当てはまる 1 当てはまらない 数字を記入 () 内数字は昨年度の平均	総括
学習・教育環境の整備について、管理者の考え方を明示している。	1.7 (1.7)	昨年度までも学習・教育環境の整備についての考え方について、管理者の考え方を明示した文章はなく整備計画の文章化したものも不足していた。今年度も改善はみられない。 看護の専門教育に必要な施設設備は閉校決定前は計画的に行われていたが、現在は学生の学習に影響が出ないようガイドラインを遵守することが精一杯である。学生の学習環境や教職員の職務が円滑に遂行されるような施設整備は今後望めない。 *評価平均は1.4であり、昨年度と比較すると0.2ポイント低下している。
管理者の考え方に基づいて整備計画を立案し、実施している。	1.3 (1.6)	
看護の専門職教育に必要な施設設備を計画的に整備している。	1.5 (1.7)	
医療・看護の発展や学生層の変化に合わせて、施設設備を整備・改善している。	1.3 (1.5)	
養成所が設置されている地域環境との関連から、学生および教職員にとっての福利厚生の施設設備の整備を検討している。	1.2 (1.3)	
学生が学生生活を円滑に送り、教職員が職務を円滑に遂行できるように施設設備を整備している。	1.5 (1.6)	

(5) 学生生活の支援

評価項目	3 よく当てはまる 2 大体当てはまる 1 当てはまらない 数字を記入 () 内数字は昨年度の平均	総括
学生が入学後に学修を継続できる支援体制を多角的に整えている。	2.0 (1.7)	導入できる支援体制では学生が活用し学習支援を受けている。しかし多角的とは言えない。 *評価平均は1.9であり、昨年度と比較すると0.3ポイント上昇している。
学生が活用しやすいように学生生活の支援体制を整えている。	1.8 (1.7)	
支援体制は、実際に学生に活用され、学修の継続を助けている。	2.0 (1.7)	

(6) 養成所に関する情報提供

評価項目	3 よく当てはまる 2 大体当てはまる 1 当てはまらない 数字を記入 () 内数字は昨年度の平均	総括
教育・学習活動に関する情報提供を関係者（保護者等）に行っている。	2.5 (2.5)	<p>定期的または適宜保護者と連絡を取り、学生の学習状況について協力をお願いするよう情報提供している。</p> <p>情報提供の結果、関係者から協力・支援を得られているかどうかの確認は不十分である。</p> <p>広報活動は閉校が決定してからは行われていない。</p> <p>*評価平均は1.8であり、昨年度と比較すると0.4ポイント上昇している。</p>
関係者（保護者等）への情報提供は、関係者から協力・支援を得ることにつながっている。	2.2 (2.1)	
看護師等を養成する機関としての存在を、十分にアピールする広報活動を適切に行っている。	1.3 (1.4)	
広報の内容は、社会的説明責任を果たすものになっている。	1.3 (1.4)	

(7) 養成所の運営計画と将来構想

評価項目	3 よく当てはまる 2 大体当てはまる 1 当てはまらない 数字を記入 () 内数字は昨年度の平均	総括
養成所は、明確な将来構想のもとに、運営の中・長期計画・短期計画・年間計画を立案している。	1.3 (1.4)	<p>養成所の中・長期計画は把握できておらず周知もなされていない。閉校の計画は周知されたが、具体的な計画の説明はなされていない。</p> <p>*評価平均は1.3であり、昨年度と比較し0.1ポイント低下している。</p>
その実施・評価は将来構想との整合性をもってしている。	1.3 (1.4)	

(8) 自己点検・自己評価体制

評価項目	3 よく当てはまる 2 大体当てはまる 1 当てはまらない 数字を記入 () 内数字は昨年度の平均	総括
自己点検・自己評価の意味と目的を理解している。	2.5 (2.3)	<p>教員数が減少しているため、少人数ではあるが全員で資料に沿って評価した。</p> <p>*評価平均は、2.0であり、昨年度と同様である。</p>
実際に自己点検・自己評価を行うための知識と方法を明確にもっている。	2.0 (2.1)	
自己点検・自己評価体制を整え、運用している。	2.0 (2.1)	
自己点検・自己評価は、養成所のカリキュラム運営、授業実践にフィードバックするように機能している。	1.7 (1.8)	
自己点検・自己評価体制は、養成所の教育理念・教育目的、教育目標の維持・改善につながるように機能している。	1.7 (1.7)	

6 入学

評価項目	3 よく当てはまる 2 大体当てはまる 1 当てはまらない 数字を記入 () 内数字は昨年度の平均	総括
教育理念・教育目的との一貫性をもって入学者選抜についての考え方を述べている。	1.5 (1.5)	募集停止しているため評価できない項目である。 在学生が入学した際の選抜については全員入学しており、選抜方法の妥当性も教育効果の視点からの分析も行われていない。 *評価平均1.3であり、昨年度と比較し0.2ポイント上昇しているが内容は変化していない。
入学者状況、入学者の推移について、入学者選抜方法の妥当性及び教育効果の視点から分析し、検証している。	1.0 (1.1)	

7 卒業・就業・進学

評価項目	3 よく当てはまる 2 大体当てはまる 1 当てはまらない 数字を記入 () 内数字は昨年度の平均	総括
卒業時の到達状況を捉える方法が明確であり、計画的に行っている。	3.0 (2.3)	学生便覧に卒業時の到達目標は明示している。卒業時および学年末にアンケート調査を実施し、目標の到達度を確認しているが、自己評価の集計になっているため分析しているとは言えない。また、教育理念・教育目的・教育目標との整合性は十分とは言えない。 卒業生の評価・問題点の把握は、病院訪問等で可能な施設においては把握できているが全てとは言えない。課題改善のための体制づくり等は計画の予定はないため、改善は難しい。 *評価平均は1.8であり、昨年度と比較すると0.6ポイント上昇している。
卒業時の到達状況を分析している。	2.6 (2.0)	
卒業生の就業・進学状況を分析している。	2.0 (1.7)	
卒業生の到達状況、就業・進学状況についての分析結果は、教育理念・教育目標との整合性がある。	1.7 (1.5)	
卒業生の就業先での評価を把握し、問題を明確にしている。	1.5 (1.1)	
卒業生の就業先との情報交換や調査の実施等ができる体制を整えている。	1.5 (1.1)	
卒業生の活動状況を把握し、統計的に整理している。	1.0 (1.0)	
卒業生の活動状況の分析結果を、教育理念・教育目的、教育目標、授業の展開に活用している。	1.0 (1.1)	

8 地域社会／国際交流

(1) 地域社会

評価項目	3 よく当てはまる 2 大体当てはまる 1 当てはまらない 数字を記入 () 内数字は昨年度の平均	総括
社会との連携に向けて、地域のニーズを把握している。	1.3 (1.2)	<p>地域のニーズは例年把握できていないとほとんどの教員が評価している。地域への貢献も長い期間感染対策の為ボランティア活動も行えず、貢献できていない。</p> <p>情報発信については、以前は学校ホームページ上で情報発信していたが、閉校決定後ホームページのリニューアルもなされていない。</p> <p>*評価平均は1.5であり、昨年度と比較して0.1ポイント上昇しているがほとんど変化なし。</p>
看護教育活動を通して地域社会への貢献を組織的に行っている。	1.7 (1.2)	
養成所の教育活動について、地域社会のニーズを把握する手段をもっている。	1.3 (1.5)	
養成所から地域社会へ情報を発信する手段をもっている。	1.3 (1.3)	
養成所が設置されている地域の特徴を把握している。	1.5 (1.5)	
地域内における諸資源を養成所の学習・教育活動に取り入れている。	1.7 (1.8)	

(2) 国際交流

評価項目	3 よく当てはまる 2 大体当てはまる 1 当てはまらない 数字を記入 () 内数字は昨年度の平均	総括
国際的視野を広げるための授業科目を設定している。	2.2 (1.8)	<p>国際的視野が広がるように新カリキュラムになり文化人類学や国際看護について学ぶ体制が整っている。</p> <p>インター念と環境は整備されているが、その他の学習環境については整備されていない。</p> <p>*評価平均は1.5であり、昨年度と比較すると0.3ポイント上昇はしているが、取り組みにほとんど変化はみられていない。</p>
国際的視野を広げるための自己学習に適した環境を整えている。	1.5 (1.1)	
海外からの帰国学生や留学生の受け入れ体制を整えている。	1.0 (1.0)	
留学や海外において看護職に就くこと等を希望する学生に対応できる体制を整えている。	1.2 (1.1)	

9 研究

評価項目	3 よく当てはまる 2 大体当てはまる 1 当てはまらない 数字を記入 () 内数字は昨年度の平均	総括
教員の研究活動を保障（時間的、財政的、環境的）している。	1.2 (1.0)	<p>教員の研究への取り組みは、協力する体制はあるが、時間や財政的な保証は整備されていない。</p> <p>一部教員が研究活動に取り組んだが教員相互で支援する文化的素地は整っていない。</p> <p>*評価平均は1.1であり、昨年度と同様である。</p>
教員の研究活動を助言・検討する体制を整えている。	1.2 (1.1)	
研究に価値をおき、研究活動を教員相互で支援し合う文化的素地が養成所内にある。	1.0 (1.1)	